

2020年9月17日(木) 神戸新聞 朝刊22面より抜粋
 「神戸港クルーズ 近場でリゾート」

神戸港クルーズ

神戸港に20日、新たな観光遊覧船・神戸シーバスの「boh boh(ボーボー) KOBE」(427ト)が就航する。「リゾートクルーズ」をコンセプトに、コロナ禍でも、地元住民らが近場で行楽気分を味わえるような演出を用意。就航を前に、船員らが操船訓練を続けている。(横田良平)

近場でリゾート

神戸シーバスは、海運会社の早駒運輸(神戸市中央区)が運航。ボーボー号は三菱重工業長崎造船所の通勤船だった「ぐらばあ」を改装し、旅客船仕様にした。今年6月に引退した「フアンタジー号」(152ト)の後継となる。全長38.4m、幅10.66mで、船内ではスイーツや飲み物を提供し、2階船首部分に港の風景が一望できるスペースを用意する。3階には海風が感じられるオープンデッキを設置し、弓削牧場(同市北区)から肥料の提供を受けてバジルなどのハーブを育てる。リゾート感が満喫できる音やにおいの演出も行い、「見て、触って多彩な体験を」(同社)と魅力をアピールする。クルーズは1時間が基本



操縦席から海上の様子を警戒する船員＝神戸港

新遊覧船、20日就航へ

音、においの演出も 見て、触って、多彩な体験を

で、中突堤からポートアイランド沖、神戸空港の滑走路付近まで周遊。時間が合えば、発着する飛行機を真下から眺められるという。パーティーなどの貸し切りや季節のイベントも開催。コロナ対策として、定員600人の乗船人数を250人程度まで絞る。ボーボー号は総トン数がフアンタジー号の約3倍になり、船員も新たな操船技術が必要になった。このため、神戸大海事科学部の協力で、実技訓練や海中転落者の救助訓練を行い、習熟に努めている。船長の一人、久保柚葉さん(27)は「これまでとは操船感覚が違う。安全を第一に、よ



㊦20日に就航する「boh boh KOBE」号＝神戸市中央区波止場町
 ㊦3階のオープンデッキでは、潮風を感じながらミナトの風景を眺められる

り楽しんでもらえるクルーズ況を確認できる。乗船料は大人1800円、中学・高校生1500円など。水曜運休。同社予約センター(フリーダイヤル0120・370764)で運航状況を



にしたい」と話す。